



R4.3.24 卒業式のことば



柔らかな春の日差しに、桜のつぼみも膨らみを増し、春の訪れを感じるさわやかな季節となりました。保護者の皆様のご臨席を賜り、このよき日に、卒業式が挙行できますことに心より感謝申し上げます。

本来であれば、この会場に、ご来賓の皆様や地域の皆様、在校生全員が参列するところですが、本日は、在校生を代表して5年生のみ参加しています。他の在校生は、教室でこの卒業式の様子をテレビ画面から見ております。

さて、卒業するみなさん、ご卒業おめでとうございます。

今、みなさん一人一人に卒業証書を手渡しました。私は、みなさんの気迫のこもった返事とこれからの夢や希望を堂々と語る姿、立派に卒業証書を受け取る姿に改めて大きな成長を感じました。特にこの1年は、最上級生として、また、学校のリーダーとして、しっかりと学校を支えてくれました。立ち止まって相手の顔を見て行うあいさつは、大変素晴らしく、在校生のお手本となりました。下級生に対しては、優しさあふれる先輩でした。きっと、みなさんの活躍は、本校の伝統として引き継がれていくことでしょう。

卒業にあたり、みなさんに伝えておきたいことが1つあります。それは、「苦しい時こそ、笑顔を絶やさない。」ということです。

今年の2月に北京冬季オリンピックが開催されました。多くの選手が活躍しましたが、その中に、銀メダルを獲得したカーリング女子日本代表チームの「ロコ・ソラーレ」がいます。この日本代表チームは、北海道北見市の地元のチームです。彼女たちは、このチームで国内予選からオリンピックまで戦いました。国内予選では、何度も苦戦したそうですが、チームでピンチを乗り越えて、日本代表をつかみ取りました。

ロコ・ソラーレは、オリンピックでも何度も苦戦していました。ところが、他の国のチームとは全く違っていたのです。彼女たちは、どんな時も笑顔とコミュニケーションを絶やさず、お互い声を掛け合い、元気にプレイしていました。苦しい時に、笑顔と「ナイス」という掛け声で、前向きになったと言っています。他の国の選手たちは、元気で笑顔の日本チームと対戦すると、自分たちも楽しい気持ちになれたそうです。

また、ロコ・ソラーレの選手の吉田知那美さんが、

「苦しい場면을苦しい表情でやるのは誰にでもできる。楽しむには覚悟がいる。」とも言っています。

彼女たちの笑顔は、ピンチを乗り越えるだけでなく、覚悟でもあったのです。ロコ・ソラーレは、笑顔と覚悟で、地元のチームで戦い、見事に銀メダルを獲得しました。

人生には、苦しいことや辛いことが必ずあります。そんな時こそ、ロコ・ソラーレの選手たちの様に、笑顔を絶やさず、「ナイス」の様な前向きな言葉を掛け合って、ピンチを乗り越ってください。

保護者の皆様、本日、お子様が立派に小学校を卒業されますことを、職員を代表しまして心よりお祝い申し上げます。小学校卒業という節目を迎えられ、これまでのご苦勞も大きな喜びに変わっていることと存じます。この6年間、本校の教育活動に格別のご理解ご協力を賜りましたことを、心より感謝申し上げます。これからも、お子さんが健やかにたくましく成長されますようお祈り申し上げます。

名残は尽きませんが、卒業生のみなさんの輝ける未来に幸多からんことをお祈りして、式のことばといたします。



令和4年3月24日

鳩山町立亀井小学校長

下村 晴恵